

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年は猛暑であったが、9月に入り気温が多少下がってきたことから、人出が増え始めてきた。観光客も非常に多く、街中にも活気が出てきた。ただし、依然として例年よりも気温が高いことで、そろそろ収穫期を迎える農業の不作や漁業の不漁がみられており、今後の物価高騰が懸念材料となっている。
	◎	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・残暑の影響でエアコンの販売量が伸びているほか、電気料金の高騰に伴って電気温水器の入替え需要が旺盛であり、売上が伸びている。
	○	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・売上がコロナ禍前の水準に近づいてきているなど、回復の兆しがみられる。各種イベントの再開も売上増加に寄与している。
	○	スーパー（店長）	単価の動き	・9月の売上は前年比100%を達成している。特に即食、菓子、日用品が伸びている。また、商品単価が上がっているにもかかわらず、販売量が前年を上回っている。客の節約志向は確かにみられるものの、目新しい商品や新商品などはある程度価格が高くても売れており、売り方によっては客が買うようになっている。
	○	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・観光関連の需要回復に国としても力を入れていることもあって、行楽需要が回復している。周辺の道路の様子をみても、車の流れから人の動きが活発になっていることがうかがえる。ただし、スーツ関連の需要は著しく低下している。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・売上、来客数共に、前年を上回っている。特に暑さの影響で夏物家電が健闘している。ただし、暖房器具などの出足は鈍い。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・少しずつではあるが、来客数が増えてきている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏季繁忙期の航空需要をみると、国内線はコロナ禍前の水準にほぼ回復している。また、空港周辺の工業団地に半導体製造企業の進出が決まり、社屋工事が始まったことで工事関係者の動きも活発になっている。国際線も7月から中国便が再開したことで、9月の国際線利用者数はコロナ禍前の90%程度まで回復している。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスやインフルエンザなどの新規感染者が増えてきているものの、客の動向は良くなってきている。ただし、コロナ禍で業績悪化した企業が多いこともあって、需要は2019年の水準までは戻ってきていない。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行需要が高まり、客がコンスタントに来店している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・当社全体でのタクシーの売上をみると、9月は2022年比でプラス10%であった。ただし、2019年比ではマイナス25%であり、コロナ禍前と比べると大幅なマイナスが続いている。タクシー1台当たりの売上は、2022年比で約20%のプラスとなっており、コロナ禍前と比べても25%のプラスとなっているが、乗務員不足で稼働しているタクシーが減っているため、会社の売上はなかなか増えてこない。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・地域イベントが再開していることで、人流はコロナ禍前の状態に回復している。観光客の入込も好調であり、景気は良くなっている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・今年の夏は4年ぶりに数々のイベントなどが開催されたこともあって、3か月前と比べると景気はやや良くなっている。ただし、秋から冬にかけての動きにも注視していきたい。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・毎年9月に発売される話題の通信端末の販売量が前年の1.5倍を超えるなど、好調である。予約分も考慮すると、当面は前年以上の販売量が期待できる。

○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・当施設の利用者数は引き続き回復基調にある。ここ数か月、国内客については、ファミリーやカップルが目立っている。また、外国人観光客については、台湾からの団体客を中心に増え続けており、欧米からの個人客も増えている。コロナ禍前の日常が戻りつつある。
○	美容室（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響で8月の来客数が減少したことの反動がみられる。9月は来客数、売上共に、前年比で20%以上の増加となっている。客からは、いまだに新型コロナウイルス感染症にかかったとの話が一定数みられるが、客に余り深刻な様子はみられない。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・旅客、車両共に、見込みどおりの伸びがみられる。特に車両は普通乗用車の利用が大幅に増加している。
□	商店街（代表者）	単価の動き	・高額品が少しずつ動き始めている一方で、中価格帯の商品の売行きが低迷しており、2極化が進んでいる。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は2022年比で173.3%、2021年比で488.5%、2020年比で393.1%、コロナ禍前の2019年比で106.2%となっている。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・夏休み後の閑散期となる秋シーズンを迎えているが、旅行者が想定していたほど減っていない状況にある。年配客を中心に小規模団体の旅行が増えており、前年比140%ほどの乗降客がみられる。
□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・残暑の影響で秋物の動き出しが鈍いものの、来客数は横ばいで推移している。
□	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・一部の富裕層については、購買単価が上昇傾向にあるものの、一般客については、消費マインドが上向いてこない。燃料価格の高騰や物価の上昇が影響し、生活防衛意識が強くなっている。
□	スーパー（店長）	販売量の動き	・気温の影響が大きく、衣料品の秋物商材が動かない。一方で旅行関連商材は顕著に伸びている。全体で見ると、前年並みの実績となっている。
□	スーパー（店長）	来客数の動き	・競合店対策で施策を行っても、ほとんど景気の変わらない状況が続いている。また、これから冬に向かっていくにつれて、商圈が狭くなることから、今と変わらない状況が続くことになる。
□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・売上は商品単価の上昇に伴って、前年を上回る状況が続いている。一方、1人当たりの買上点数は引き続き減少しており、買い控えの傾向は収まっていない。
□	スーパー（役員）	お客様の様子	・新店のオープンセールで、米や基礎調味料などを保存するための商品が異常なほど売れた。客の節約志向が強まり、お買い得な時に商品をまとめて買う傾向が顕著になっている。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・商品単価が上昇していることで、来客数の減少を懸念していたが、今のところは前年を上回っている。それに伴って売上も増えている。
□	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・気温の高い状況が続いているが、秋物を買う客が徐々に増えてきている。ただし、客の動向をみると、まとめ買いをすることは余り多くなく、今必要な商品だけを買うことが多い。
□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新型車の発売を目前に控えているにもかかわらず、客の動きがみられない。商談や予約もみられない状況となっている。
□	乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・インバウンドや国内旅行者が順調に回復していることで、観光関連やそれに携わる企業の景気は良くなっているが、建設業など、中小企業の倒産も多いことから、必ずしも景気が回復しているとはいえない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数は変わらないが、夏枯れの時期ということもあって、販売量は落ち込んでいる。物価が上がり、家計の負担が増えているため、客の財布のひもは固くなっている。

□	乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・大型の店舗外イベントを実施したが、一般客の動きが鈍く、コロナ禍前の来客数には至らなかった。新車の納期が半年から1年待ちとなっていることもあって、客の購買意欲が低下している。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・9月の売上は8月ほどではなかったが、来客数がやや落ち着いたことで、良いサービスを客に提供することができた。前月は低単価客の利用が多く、スタッフの人手不足もあって大変だったが、今月はスタッフ人数に適正な来客数であった。地方の観光地では、航空機減便の影響により、前月よりも来客数の減っている店舗が多いようだが、イベントの再開などによって落ち込みをカバーできている店舗もみられる。新型コロナウイルス感染症対策で受けた融資の返済を始めた店舗もみられるなど、明るい話題もちらほらみられる。地方のビジネスホテルでは、ようやく空室が出てくるようになり、高騰していた宿泊料金が落ち着き始めている。
□	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客は横ばいでの推移となっている。8月はお盆や夏休みの帰省などで旅行客の動きが活発であったが、9月は落ち着いている。
□	スナック(経営者)	来客数の動き	・まだ通常時の状態には戻っていない。女性が接客を行うような飲食店については、今年一杯は厳しいとみられる。
□	観光型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・季節的な要因を除けば、景気が上向きような要因も下向きような要因も確認できない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の利用が増えることを期待していたが、それほどでもなかった。むしろ9月中旬以降は若干の減少であった。
□	通信会社(エリア担当)	それ以外	・通信キャリアの政策が影響し、景気は横ばいでの推移となっている。
□	美容室(経営者)	販売量の動き	・ここ3か月、売上は前年をやや下回っているものの、安定して推移している。
□	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・木造住宅が引き続き低調に推移しており、売上が増えてこない状況にある。木材や建材の価格もそれほど下がっているわけではない。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の購入意欲は余り変わっていないものの、以前よりも価格に敏感になっている。当然のことだが、金利の動向を気にしている客も多い。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・土産店、ホテル、夜型飲食店については、低調ながらも回復傾向にあるが、その他の物販については厳しい状況が続いている。特に衣料品店や装飾品店などは物価高の影響もあって、客の買い控えが浸透しており、他業種が少しずつ回復に向かっているなかにあっても、やや悪い状態から抜け出せないでいる。全体的に、景気は3か月前と比べて悪くなっている。
▲	商店街(代表者)	単価の動き	・最近の値上げに伴って、来客数に影響が出ている。燃料価格が高騰していることもマイナスである。
▲	一般小売店(経営者)	販売量の動き	・売上、来客数共に、減少傾向にある。先行きが不透明になってきている。
▲	スーパー(店長)	競争相手の様子	・10月からの値上げを前にして駆け込み需要がみられたが、10月に入ると同時に需要が落ち込むとみられるため、全体的に景気はやや悪い状況にある。
▲	スーパー(企画担当)	来客数の動き	・8月と比べると、9月は客の動きが鈍い。夏の観光シーズンが終盤を迎えたことも一因ではあるが、10月からのメーカー値上げやエネルギーコストの上昇が客足を鈍らせている。
▲	コンビニ(エリア担当)	お客様の様子	・物価高騰が収まらないなか、おにぎりや弁当などの主食商品について、客が価格を気にしながら購入している。また、キャンペーン商品や値引き商品に対する客の反応が以前よりも良くなっていることも、客が価格に対して敏感に反応している現れである。客単価も下がりつつある。
▲	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・気温が高めに推移していることから、秋冬物商材を買い求める客が例年と比べて少ない。また、様々な商品の価格が上昇していることで、購入を必要最低限にとどめる様子もみられる。

	▲	その他専門店 [造花] (店 長)	お客様の様子	・商材の値上げに伴って、卸売店と小売店のいずれも客の 購買意欲が低下している。季節商材にも影響が出ている。
	▲	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・秋の紅葉シーズンに入ったものの、国内客の動きが鈍 い。特に団体客はバス不足の影響もあって、催行が減少し ている。
	▲	旅行代理店 (従 業員)	販売量の動き	・問合せ件数や来客数はそれほど悪くないものの、成約数 が減少傾向にある。ホテルの宿泊料金や交通費が高騰して いることが要因とみられる。
	▲	旅行代理店 (従 業員)	販売量の動き	・8月と同様の状況が続いている。特に海外旅行について は、物価高、円安、燃油サーチャージ高騰の影響で旅行料 金が大幅に上昇している。客は、コロナ禍前の価格水準を イメージしていることが多いため、見積りを提出した時点 で旅行を見送ることになる。こうした状況が続く限り、海 外旅行の増売は困難である。
	▲	通信会社 (エリ ア担当)	それ以外	・通信事業者の代理店政策が大きく影響しており、景気は やや悪い状態にある。
	▲	美容室 (経営 者)	単価の動き	・買い控えを公言する客の声をよく聞くようになった。
	×	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・秋になっても猛暑が続いているため、景気は悪くなって いる。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・夏のイベントなどが終了したことで人出が一段落してい る。また、通常時の生活に戻っていることで、消費マイン ドも低下している。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	*	*	*
	○	農林水産業 (経 営者)	受注量や販売量 の動き	・果実の収穫が始まったこともあって、景気はやや上向い ている。ただし、猛暑の影響で果実の収穫量が例年よりも 少なくなっている。
	○	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・9月の販売量は前年比マイナス21%であったが、3か 月前の6月の販売量は前年比マイナス36%であったこと から、景気はやや良くなっている。
	○	通信業 (営業担 当)	取引先の様子	・取引先全般から、業務繁忙、人手不足との声を聞く機会 が増えている。
	○	金融業 (従業 員)	取引先の様子	・卸売・小売業、ホテル・旅館業、旅客運輸業、食品製造 業など、個人消費関連業種や観光関連業種において、売 上、利益共に改善しているとの声を聞く機会が増してい る。また、原材料価格の上昇を懸念する声が減っているこ とから、価格転嫁が進んでいる様子もうかがえる。ただ し、人手不足や賃上げによる人件費増加を懸念する声が増 えている。
	○	その他サービ ス業 [建設機械レ ンタル] (総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・売上は引き続き前年から微増している。都市部を中心 に、民間建設投資が旺盛であり、こうした状況はしばらく 続くことになる。
	○	その他サービ ス業 [建設機械 リース] (営業 担当)	受注量や販売量 の動き	・国内の建設投資についてみると、公共投資、民間設備投 資共、堅調なことから、景気はやや良くなっている。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・売上は3か月前と比べて変わっておらず、景気の悪い状 況が続いている。
	□	建設業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・これまで、おおむね天候に恵まれていることもあって、 各現場の工事進捗に遅れはみられない。完成工事高が計画 を上回るペースで積み上がっている状況にも変化はみられ ない。
	□	輸送業 (従業 員)	受注量や販売量 の動き	・売上が前年から数%減少しているが、売上の減少幅以上 に取扱量が減少していることから、回復傾向にはないもの とみられる。販売価格が上昇していることで予算を達成し ている企業もみられたが、予算を下方修正していることも 要因とみられるため、景気は変わっていない。

	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・本州において、異常なほどの猛暑が続いていることから、飲料関連の荷動きが見込みほど伸びていない。紙・パルプ、生乳も停滞している。一部の雑貨に動きはみられるものの、ベースカーゴの動きが鈍いことから、トレーラーの回転が悪く、コストアップにつながっている。一方、バターの保管量は極端には減っておらず、底堅く推移している。例年と比べると、全体的にトレーラー貨物の取扱量が減少している。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・夏場から全体的に貨物量が減っており、悪いまま変わらない。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設業においては、単価上昇のほか、施工者不足もマイナス要因となっている。施工できる案件が限定されることで、建設を見送る状況も発生しており、案件の見送りが増加している。	
	広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・人件費などが上昇しているものの、広告費に転嫁しづらい状況にあり、景気はやや悪くなっている。	
	司法書士	取引先の様子	・物価の高騰に伴う建築材料の値上げ、大工の人材不足などが重なり、住宅新築の費用がコロナ禍前の1.5倍以上になっていることで、新築着工数が減少している。タワマンなどのマンションについても、投機用としてはそれなりに売れているが、一般の人には手が出ない状況となっている。これから冬を迎える北国においては、灯油、電気、ガソリンなどの出費が重くのしかかってくることになるため、景気が良くなることはない。	
	司法書士	受注価格や販売価格の動き	・建築関連においては、資材価格の高騰や円安の影響により建築費用が上がっており、それを負担するために、下請や関連企業への支払額、賃金が抑制されている。さらに、原油価格の高騰、猛暑の影響による食品の値上げなどもあって、悪循環が続いており、景気はますます悪化している。	
	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・忙しくなる時期になっているが、ベース商材となる消耗品などの動きが悪い状況から抜け出せていない。	
	×	*	*	
	◎	—	—	
雇用 関連 (北海道)	○	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人数は3か月前よりも減少しているが、業績が良く、人がいれば更に業績を伸ばすことができると捉えている企業からの問合せが増えている。新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いていることで、企業の売上が伸びていることがうかがえる。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・若年労働力の不足が徐々に顕在化している。特に中小零細企業における求職者のエントリー一件数が減ってきている。また、シニア層の雇用にもミスマッチが増えつつあり、しばらくは現状のまま推移することになる。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・人手不足と物価高が連日報道されていることで、人材を欲しくても採用できないというイメージや人件費を掛けることへの経営面での不安が強まっており、採用意欲の減退につながっている。Web上では求人件数が増えているように見えるが、実際は前年よりも求人数が減っている。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・観光客の増加などもあって、経済活動が順調に回復しているようにみられるものの、飲食、小売、宿泊、その他サービス業など、関連する業界の求人数は横ばいで推移している。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・当地の主要産業の1つである介護業界において、人手不足によるサービス休止、施設廃止などの事例がみられるようになってきた。
	□	職業安定所（職員）	それ以外	・様々な商材の値上げが止まらず、賃金の上昇もそれに追い付いていない。実質賃金が目減りしているため、雇用環境は厳しいまま変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・8月の新規求職者数が前年比6.1%増加と2か月ぶりに増加したなか、有効求職者数も1年1か月ぶりに増加している。また、新規求人数は前年比21.9%減少と7か月連続で減少しているものの、業況堅調な企業からは引き続き求人が公開されている。

□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における8月の有効求人倍率は0.90倍であり、3か月前との比較では0.02ポイントの上昇となっている。
□	学校〔大学〕 （就職担当）	求職者数の動き	・来春新卒者の就活はおおむね終了しているなか、追加募集に対して、景気が上向きの年は反応する学生が一定数みられるが、今年はそうした傾向がほとんどみられない。また、学生との会話から、親の経済状況が芳しくなく、仕送り額が2～3年前より減少しているとの話を聞く。一般市民の目線からは、景気の良さを感じられない。
▲	*	*	*
×	—	—	—